



七色のかがやき

長崎市立虹が丘小学校 学校便りNo.17

令和6年12月3日(火)

編集・発行責任者 校長 池田敏典

E-mail e52nagasaki-city.ed.jp

G-mail nijigaoka@gmail.com

「人権を大切にすること」とは…

本校では、11月22日から本日12月3日までを“虹小人権週間”として人権学習にも取り組んできました。目的は、『自分たちの身の回りを見つめ直し、人権や差別について考え、差別を許さない勇気をもつ子どもの育成に努め、偏見や差別のない公平・公正な心情と実践力を養う』です。そして、本日、人権集会を開きました。

私は、人権を大切にすることとして、次の二つの視点でとらえます。

① 自分の命を守ること、輝かせること

言い換えますと、「生き生きと明るく暮らすこと」です。「目標をもって、粘り強く頑張る」こと、「本校が進めている七色のかがやきを家庭・地域でも行うこと」「嘘をつかない、ずるをしないで明るい心を保つ」こと、「人の役に立つことを行う」ことなどです。

もちろん、辛いこと、悲しいこと、困ったことなどもあるでしょう。そんな自分一人の力で解決できそうにない緊急事態の際には、必ず大人に相談することが大切です。

② 他者の命を守ること、輝かせること

大前提は、「相手にも、自分と同様に心があることを忘れず、想像する」ことだと考えます。

その上で、まずは相手に「礼儀を守って丁寧に接する」ことです。「相手の心を想像して、思いやりをもって接する」ことです。「温かな言葉で励ましたり、認めたりする」ことです。

とても辛く、悲しく、困っている際には、真剣に相談に乗るとともに、緊急事態にあっては、必ず、大人に相談することが大切です。

前号で記したように、言葉で人の心は変わります。良い言葉をたくさん浴びると、心が幸せになります。良い心になっていきます。

各御家庭では、日々愛情や願いをもって子育てをされておられると思いますが、子どもの命を輝かせるための示唆に富む有名な詩を紹介させていただきます。私は、「親」を「教師」に、「家庭」を「学校」に置き換えて読むのですが、その度に自省させられます。

これからも、子どもたちが、自分や相手の命を大切にし、そして、精一杯輝かせることを心から願います。

『子は親の鏡』

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる

とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる

不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる

「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる

親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる

叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる

広い心で接すれば、キレる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ

愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる

見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる

分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、子

どもは、正義感のある子に育

つ

やさしく、思いやりをもっ

て育てれば、子どもは、やさし

い子に育つ

